指導計画案

指導上の重点目標	学習活動と指導上の留意点	
【先従隗始】 1 正確な訓読に習熟させ、基本句形を理解させる。 2 平易な現代語訳を工夫させる。 3 要旨をまとめさせる。 4 「戦国時代」の概略を理解させる。 5 「十八史略」の概要を理解させる。 6 「戦国時代」に生きる「説客」の心理を理解させる。 7 昭王のものの見方を本文に即してまとめさせる。 8 郭隗の説得の巧みさを理解させる。 9 故事成語の意味を理解させる。	**導入**	①「戦国時代」の概略と燕の混乱した理由を理解する。 ②「十八史略」の概要を理解する。 ①②ともに、漢和辞典・インターネット・資料集などを用い、グループで調べさせる。
	展開	①本文を黙読する。その後、範読を聞く。 ②一斉読みをする。その後、グループ内で読み合う。 ③「先従隗始」の本来の意味と、現在使われている意味の違いをグループで調べ、それを参考に、この話の要旨をまとめ、発表する。**知技**〔**「言葉と表現」1**〕 要旨をノートにまとめ、発表させる。 ④現代語訳をする。**知技** 第一段落と、第二・三段落に分けて現代語訳させる。 ⑤内容読解をする。 次のア～オのポイントに注意させる。ア「先王之恥」とは何か、イ燕の昭王がなぜ賢者を求めるのか、ウ「千里馬」「死馬」は、それぞれ誰をたとえているか、エ「先従隗始。」とは、誰が誰に何を求めたのか、オ昭王が郭隗のために邸宅を新しく築いて、師事した効果。 ⑥戦国時代に生きる「説客」の心理をグループで話し合い、代表が発表する。 ⑦昭王のものの見方や考え方を、本文に即してまとめる。**思判表**〔**「学習のポイント」1**〕 昭王のものの見方や考え方は、昭王の言葉の中に表現されているので、その言葉をグループで吟味させる。
	まとめ	①郭隗の弁舌の巧みさがどこにあるかをグループで話し合い、代表が発表する。**思判表** **主態**〔**「言語活動」1**〕 郭隗の用いたたとえ話を昭王が共感したから、郭隗を登用することになる。どのような点に共感したかをグループで話し合い、その巧みさを理解させる。 ②①で発表した自グループの考えについて、他グループからの質問や意見を受け、それに対する返答のための検討をする。また、返答の仕方も工夫する。 ③まとめの朗読をする。 ○テストを実施する。 ○語句・句形問題を実施する。

【鶏口牛後】 1　正確な訓読に習熟させ、基本句形を理解させる。 2　平易な現代語訳を工夫させる。 3　要旨をまとめさせる。 4　「春秋戦国時代」「戦国の七雄」「諸子百家」「合従連衡」の概略を理解させる。 5　「西向」の具体的な内容を理解させる。 6　蘇秦の説得の巧みさはどこにあるか話し合わせる。 7　故事成語の意味を理解させる。	**導入**	①　「春秋戦国時代」「戦国の七雄」「諸子百家」の概略と「合従連衡」の言葉の意味・その策の概略とを辞書・インターネット・資料集などを利用して調べる。**知技**〔「学習のポイント」１・「言葉と表現」１〕
	展開	①　本文を黙読する。その後、範読を聞く。 ②　一斉読みをする。その後、グループ内で読み合う。 ③　「鶏口牛後」の意味を調べ、それを参考に、この話の要旨をまとめ、発表する。〔「言葉と表現」１〕 ④　要旨をノートにまとめ、発表させる。 現代語訳をする。**知技** ⑤　内容読解をする。 次のア～ウのポイントに注意させる。ア「遊説」とは、どのようなことをするのか、イ「西向」とは、具体的にどのようにすることか、ウ「鶏口」と「牛後」が指す具体的な内容。
	まとめ	①　蘇秦の説得の巧みさはどこにあるかをグループで話し合い、代表が発表する。**思判表**　**主態**〔「言語活動」１〕 六国の諸侯たちのどのような気持ち・時代気風・時代風潮を利用したところに巧みさがあるか、考えさせる。 ②　①で発表した自グループの考えについて、他グループからの質問を受け、それに対する返答のための検討をする。 また、返答の仕方も工夫する。 ③　「寧ろ」を用いた短文を作り、グループ内で発表し合う。**知技**〔「言葉と表現」２〕 ④　まとめの朗読をする。 ○　テストを実施する。 ○　語句・句形問題を実施する。

【管鮑之交】

1 正確な訓読に習熟させ、基本句形を理解させる。
2 平易な現代語訳を工夫させる。
3 要旨をまとめさせる。
4 斉の桓公が活躍した「春秋時代」の概略を再確認させる。
5 管仲の三つの行動における鮑叔の評価とその理由をまとめさせる。
6 管仲が鮑叔に、鮑叔が管仲に抱く心情をまとめさせる。その上で、管仲と鮑叔は、それぞれどのような人物として描かれているかを説明させる。
7 対偶表現を抜き出し、その効果を説明させる。
8 故事成語の意味を理解させる。
9 同訓異義語を理解させる。

導入	
①	斉の桓公の活躍した春秋時代の概略を確認する。 漢和辞典・インターネット・資料集などを用い、グループで調べさせる。
展開	
①	本文を黙読する。その後、範読を聞く。
②	一斉読みをする。その後、グループ内で読み合う。
③	「管鮑之交」の意味を調べ、それを参考に、この話の要旨をまとめ、発表する。 要旨をノートにまとめ、発表させる。
④	現代語訳をする。**知技** 第一段落と、第二・三段落に分けて現代語訳させる。
⑤	内容読解をする。**思判表**〔**学習のポイント**」1〕 次のア～キのポイントに注意させる。ア小白が子糾よりも早く斉に到着することができた理由、イ鮑叔が管仲を桓公に薦めた理由、ウ「置怨」の意味、エ管仲の三つの行動における鮑叔の評価と、その理由、オ「知我者鮑子也。」から読み取れる、管仲の気持ち、カ「対偶」表現の指摘と、その効果、キ本文に登場する人物の関係。
まとめ	
①	管仲が鮑叔に、鮑叔が管仲に抱く心情を、本文に即してまとめる。そのうえで、管仲と鮑叔は、それぞれどのような人物として描かれているか、グループで話し合い、代表が発表する。**思判表** **主態**〔**言語活動**」1〕 次のような話し合いのポイントを指示してもよい。ア管仲の鮑叔に対する心情は、『管仲曰、生我者父母、知我者鮑子也。』に描かれている。イ鮑叔の管仲に対する心情は、『管仲字夷吾。…知仲有老母也。』に描かれている。
②	①で発表した自グループの考えについて、他グループから質問や意見を受け、それに対する返答を検討する。さらに、返答の仕方も工夫する。
③	「管鮑之交」とは、どのような関係か、グループで話し合い、代表が発表する。**知技**〔**言葉と表現**」1〕
④	「謀る」「図る」「計る」「測る」「量る」「諮る」の意味の違いを調べる。**知技**〔**言葉と表現**」2〕
⑤	まとめの朗読をする。
○	テストを実施する。
○	語句・句形問題を実施する。

【臥薪嘗胆】

1 正確な訓読に習熟させ、基本句形を理解させる。
2 平易な現代語訳を工夫させる。
3 要旨をまとめさせる。
4 夫差が「臥薪」し、句践が「嘗胆」するに至った経過と、そうすることによって得られた結果について整理させる。
5 夫差の子胥に対する気持ちの変化を整理させる。
6 夫差が句践に敗れた理由を話し合わせる。
7 故事成語の意味を理解させる。
8 四字熟語を創作させる。

導入	① 「春秋時代」の呉楚の抗争の概略を理解する。 漢和辞典・インターネット・資料集などを用い、グループで調べさせる。
展開	① 本文を黙読する。その後、範読を聞く。 ② 一斉読みをする。その後、グループ内で読み合う。 ③ 「臥薪嘗胆」の意味を調べ、それを参考に、この話の要旨をまとめる。**知技**〔「言葉と表現」１〕 要旨をノートにまとめ、発表させる。 ④ 現代語訳をする。**知技** 「臥新」部分と、「嘗胆」部分に分けて現代語訳させる。 ⑤ 内容読解をする。**思判表**〔「学習のポイント」１・２〕 次のア～コのポイントに注意させる。ア「入郢」とは誰が何のためにそうしたのか、イ夫差が「薪中」で寝起きした理由、ウ「請為臣妻為妾。」から読み取れる句践の気持ち、エ子胥が「不可。」と言った理由、オ太宰伯嚭が夫差に越王句践を許すよう助言した理由、カ句践が「仰肝嘗之」した理由、キ夫差が子胥に「属鏤之剣」を与えた理由、ク遺言から読み取れる子胥の気持ち、ケ夫差の子胥に対する気持ちの変化、コ夫差が「吾無以見子胥。」と言った理由。
まとめ	① 夫差が句践に敗れたのはなぜか。その理由をグループで話し合い、代表が発表する。**思判表** **主態**〔「言語活動」１〕 ② ①で発表した自グループの考えについて、他グループから質問や意見を受け、それに対する返答を検討する。さらに、返答の仕方も工夫する。 本文に即して、グループで丁寧に吟味させる。 ③ 四字熟語を創作し、発表する。また、その作品の意味と使い方も解説する。〔「言葉と表現」２〕 ④ まとめの朗読をする。 ○ テストを実施する。 ○ 語句・句形問題を実施する。

【中国英傑伝】

1 第一次・第二次感想をまとめさせる。
2 本文中の漢詩を正確に訓読させる。
3 本文中の漢詩の平易な現代語訳を工夫させる。
4 作品に描かれた伍子胥の思いを知るため、漢文教材「臥薪嘗胆」との比較読みをさせる。
5 作品に描かれた登場人物の心情、考え方や生き方を学ばせる。

導入	**展開**	**まとめ**
① 作者について理解する。 知技	① 本文の黙読をする。 ② 第一次感想をノートにまとめ、その後、発表しする。 ③ 内容読解をする。〔「学習のポイント」 1〕 思判表 次のア～オのポイントに注意させる。ア「同じこと」とは、具体的にどのようなことかをグループで話し合い、代表が発表する。イ（　）内の書き下し文を現代語訳し、朗読する。ウ板書した現代語訳について、他グループから質問や意見を受け、それに対する返答を検討する。その返答の仕方も工夫する。エ（　）内の書き下し文を、その意味を考えながら、グループ内で朗読し合う。オ「ずっとずっと後年、子胥はそれを思い知るのである。」とあるが、どのようなことを「思い知る」かを漢文教材「臥薪嘗胆」をもとに、グループで話し合う。	① 伍子胥は伯嚭に対して、どのような思いを持っているかをグループで話し合いながら本文に即してまとめ、発表する。〔**「学習のポイント」 2**〕 思判表 主態 ② ①で発表した自グループの考えについて、他グループから質問や意見を受け、それに対する返答を検討する。さらに、返答の仕方も工夫する。 ③ 本文の意味を考えながら、グループ内でまとめの朗読をする。 ④ 第二次感想をノートにまとめ、発表する。 ○ テストを実施する。

【単元の言語活動３　登場人物の魅力を紹介する】

1 「史伝」作品や文章の、歴史的・文化的背景などを調査させる。
2 生徒自身が主体的に、作品や文章の内容をより深く広く理解しようとする読み解きをさせる。
3 人に伝わるよう、紹介文を的確にわかりやすく書かせる。
4 作品や文章に対して自分の意見や感想を持たせ、相互評価や自己評価をさせる。

導入	展開	まとめ
①	① ② ③	①
ワークシートと振り返りシートを配布する。 活動の目的を説明する。	紹介する人物一名を選び、その人物の魅力を探る。 知技 思判表 アその人物の、ものの考え方や生き方、おもしろかった場面や言動などを多面的に分析し、その魅力を探り出させる。 イ辞書・インターネット・資料集などで人物の略歴やエピソード・人物像などを調べ、分析の参考資料にさせる。 ウ探り出した人物の魅力を、箇条書きにしてまとめさせる。 紹介する人物の魅力を、効果的に伝えるための構想を練り、紹介文を書き上げる。 思判表 ア人物の魅力を伝えるために、表現のしかたを工夫させる。 イ アを踏まえて、人物紹介文を書き上げさせる。 ウ アを踏まえて、書き上げた人物紹介文を、推敲させる。 人物紹介文を、発表し合う。 主態 アグループを作り人物紹介文を発表し合い、相互評価させる。 イ相互評価をもとに、人物紹介文を加筆訂正させる。 ウ加筆訂正した人物紹介文の自己評価を行わせる。	振り返りシートに記入する。